少年の町（1938）

BOYS TOWN

メディア 映画
ジャンル ドラマ
製作国 アメリカ
色彩 B&W
時間 96分
初公開日 1939/10
公開情報 ＭＧＭ

【解説】

貧しく親のない、あるいは見離された不良少年たちの“町”を建設し、彼らの更正に尽くした神父の実話の映画化。さる死刑囚の告解に赴いたフラナガン神父は、“不良仲間の他に頼るものがなかった”という彼の叫びを聞き、自分が面倒を見る教区のスラムの少年たちのため、友人の雑貨屋モリスの援助で小さな施設を開く。段々に彼の希望は膨らんで、郊外の村に“少年の町”を作ろうと、敵対する新聞社主ハートグレイブスを協力させ、全国から幅広く募った献金でそれを築き上げる。少年たちの自主性を尊重し、彼らの自治で成立つ町。そこでは信仰すら自由で、アメリカ社会の縮図のようなものだ。終身犯ジョー・マーティたっての望みで、“町民”となった弟ホワイティ（ルーニー）は大変な問題児だったが、町長となるのを励みにし、自然と居ついた。次期選挙は現職フレディと小児マヒで不具のトニーと彼の三つ巴。積極的なキャンペーンを張る彼より、“自信がない”と勝利をフレディに譲ろうとしたトニーが最大の支持を受け当選。失意のホワイティが町を去ろうとすると、みなのマスコット的存在のピーウィが後を追って車にひかれ重傷を負う。ショックで町をさ迷うホワイティはいつの間にか古巣のスラム街へ。そこでギャングを働いたばかりの脱獄した兄に誤射され怪我を負い、一旦は“町”に帰るが、一味と疑われ、いたたまれず兄たちの隠れ家に向かう。神父や少年らは彼の身を案じ、そこへ駆けつけ、彼を解放する（この辺のルーニーの過剰演技や、監督タウログの愛国主義が露になる私刑に赴く自警団的な神父一行の描写には寒気がする）。そして終幕で、立ち直ったホワイティは町長に選ばれるのだった。

全体に感傷がすぎてシラけるが、飴を欲しがるピーウィと神父のやりとりはユーモアたっぷりの名場面。主演のトレイシーはオスカー受賞。原作・脚本を後にＲＫＯやＭＧＭで製作担当重役になるＤ・シャーリーが書いている。続編は「感激の町」。

【クレジット】

監督	ノーマン・タウログ	Norman Taurog
製作	ジョン・Ｗ・コンシダイン・Ｊｒ	John W. Considine, Jr.
原案	エリナー・グリフィン	Eleanore Griffin
脚本	ドア・シャリー	Dore Schary
	ジョン・ミーハン	John Meehan
撮影	シドニー・ワグナー	Sidney Wagner
作曲	エドワード・ウォード	Edward Ward
出演	スペンサー・トレイシー	Spencer Tracy
	ミッキー・ルーニー	Mickey Rooney
	ヘンリー・ハル	Henry Hull
	ジーン・レイノルズ	Gene Reynolds
	レスリー・フェントン	Leslie Fenton
	ジョン・ハミルトン	John Hamilton

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2026 Stingray. All Rights Reserved.

ヴィクター・キリアン	Victor Kilian
エドワード・ノリス	Edward Norris
アディソン・リチャーズ	Addison Richards

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2026 Stingray. All Rights Reserved.